

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		2・東書	第1・2・3学年 技術分野	技術・701	新しい技術・家庭 技術分野 未来を作るTechnology
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 技術分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「A材料と加工の技術」において、身近な製品に関する技術の工夫について考えることを通して、材料と加工の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、生活上の不便さなどの問題を解決する製作品に関する実習を通して、材料と加工の技術を工夫し創造したりする活動 ・「B生物育成の技術」において、夏野菜を冬に栽培することができる技術について考えることを通して、生物育成の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、生物育成の技術のプラス面やマイナス面について話し合うことを通して、生物育成の技術を工夫し創造したりする活動 ・「Cエネルギー変換の技術」において、様々な発電方法に関する技術の工夫について考えることを通して、エネルギー変換の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、エネルギー変換の技術の最適化や燃料電池などの新しい技術の開発について多角的な視点から考えることを通して、エネルギー変換の技術を工夫し創造したりする活動 ・「D情報の技術」において、普段利用している情報について考えることを通して、情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、情報機器の利用の便利な点と注意すべき点について話し合うことを通して、情報の技術を工夫し創造したりする活動 <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、「生物育成の技術による問題解決」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、生産者の立場からよりよい栽培方法を考えたり、栽培の成果・課題を基に改善を図ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。</p>			
内容の構成・排列、分量等		<p>○ 内容の構成・排列については、「技術分野の学習を見てもよう」において、3年間の学習の見通しを立てるガイダンス的な学習の後に、技術の原理や仕組みを考え、身の回りに活用されている技術を評価する活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「ガイダンス」は12ページ、「A材料と加工に関する技術」は70ページ、「B生物育成に関する技術」は50ページ、「Cエネルギー変換に関する技術」は60ページ、「D情報に関する技術」は66ページ、「その他」が45ページで、総ページ数は291ページであり、前回からの増減はない。</p>			
使用上の配慮等		<p>○ 安全性や経済性など多角的な視点で技術を捉えることができる「最適化の窓」を示したり、学習を広げ、深めることができる資料を掲載したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 各節の冒頭に考えたり、話し合ったりする「始めの活動」や、学習した内容をまとめ、生活に生かすことができる「まとめの活動」を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 思考ツールの活用方法を示したり、全ての生徒が学習しやすいようユニバーサルデザインフォントに配慮したりするなど使用上の便宜が図られている。</p>			

<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域素材については、「B 生物育成の技術」において八雲町の酪農、「C エネルギー変換の技術」において北海道・東北新幹線が取り扱われている。 ○ ICTの活用については、各内容の最初のページにQRコードが掲載されている。専用サイトは各内容の動画等が一覧で示されており、掲載されている実習作業の手順を示した動画や各内容に関わる他教科の関連資料などを授業の中で動画等を確認して作業を行ったり、学習の振り返りなどで資料を活用したりできるよう配慮がなされている。 ○ 小中連携による指導については、小学校で学習したプログラミングソフト「Scratch」によるプログラム例が掲載されている。また、小学校の学習内容と連携する項目に、マークを付けて分かりやすくする配慮がなされている。
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自らの力で生活の中から課題を見だし、見方・考え方を働かせ、よりよい生活を目指して工夫し創造する力を育むことができるよう、各内容の2章に問題解決例を掲載し、課題解決を行う上での工夫がなされている。 ○ 授業の中で身に付けた技能を生かして、実生活の中の問題を解決する力を育むことができるよう、巻末に資料として、3種類のプログラミング技能についてまとめて掲載されており、振り返りながら実践的な技能を生かすための工夫がなされている。 ○ 学んだ知識を実生活の事象などに関連付けて定着させることができるよう、各内容の3章において、現在使われている技術の最適化の例や社会や生活における問題を紹介する工夫がなされている。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作業の安全については、ガイダンスの前に2ページ掲載されている。 ○ 安全や環境、防災のポイントにはマークを付けて生徒の意識を高められるよう工夫がなされている。

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
			6・教図	第1・2・3学年 技術分野	技術・702 技術・703
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 技術分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「A材料と加工の技術」において、普段使っている製品の技術の工夫を考慮することを通して、材料と加工の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、材料の特性を踏まえ、目的に合わせた加工法を用いた製作品に関する実習を通して、材料と加工の技術を工夫し創造したりする活動 ・「B生物育成の技術」において、作物、家畜、水産生物などに共通する育てる技術を考えることを通して、生物育成の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、生物育成の技術の果たす役割や影響などについてまとめることを通して、生物育成の技術を工夫し創造したりする活動 ・「Cエネルギー変換の技術」において、生活や社会の中で利用されているエネルギー変換に関する技術を考えることを通して、エネルギー変換の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、エネルギー変換の技術の果たす役割や新たな技術の開発などについてまとめることを通して、エネルギー変換の技術を工夫し創造したりする活動 ・「D情報の技術」において、情報の技術がどのように使われているのか考えることを通して、情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、情報の技術の果たす役割についてまとめることを通して、情報の技術を工夫し創造したりする活動 <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、「生物育成の計画を立てよう」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、写真などを活用して育成記録をまとめたり、育成結果や工夫した点を発表したりするなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。</p>			
内容の構成・排列、分量等		<p>○ 内容の構成・排列については、「学習内容への道案内」において、3年間の学習の見通しを立てるガイダンス的な学習の後に、4つの内容に関する基礎的・基本的な知識を活用した実習などを行い、実習を通して技術の評価・活用について考える活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「ガイダンス」は8ページ、「A材料と加工に関する技術」は80ページ（そのうち別冊が2～13ページ）、「B生物育成に関する技術」は52ページ（そのうち別冊が14～23ページ）、「Cエネルギー変換に関する技術」は70ページ（そのうち別冊が24～29ページ）、「D情報に関する技術」は94ページ（そのうち別冊が30～39ページ）で、総ページ数は別冊含めて327ページであり、前回より18%増となっている。</p>			
使用上の配慮等		<p>○ 設計や計画を構想することができるワークシートを示したり、実習中に確認できる技能に関する資料を別冊にしたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 学習の流れを明確にする「見つける」「学ぶ」「振り返る」の3つのステップや、単配元の習得度合いを自ら確認し、振り返ることができる「めあて」を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 教科書や別冊の使い方について説明するページを示したり、全ての生徒が学習しやすいよう、重要語句を青太文字に配慮したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>			

<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域素材については、巻頭に札幌市の地下鉄の多言語表示の技術や「B 生物育成の技術」において、北海道の強いイネなどが取り扱われている。 ○ ICTの活用については、各ページ上段にQRコードが掲載されている。各内容の専用サイトで構成されており、掲載されている実習作業の解説動画や関連資料などを実習前や実習中に手順を動画で確認したり、学習の振り返りに資料などが活用できるよう配慮がなされている。 ○ 小中連携による指導については、小学校で学習したプログラミングソフト「Scratch」の基本的な使い方が掲載されている。また、各章の最初に「リンク」という箇所において、関連する小学校の教科名が分かるよう配慮がなされている。
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自らの力で生活の中から課題を見だし、見方・考え方を働かせ、よりよい生活を目指して工夫し創造する力を育むことができるよう、各内容の2章に題材例を示し、問題解決の手順を掲載するなどの工夫がなされている。 ○ 授業の中で身に付けた技能を生かして、実生活の中の問題を解決する力を育むことができるよう、別冊に工具の使い方などの実習に関する内容を掲載し、学習を振り返りながら実践的な技能を生かすための工夫がなされている。 ○ 学んだ知識を実生活の事象などに関連付けて定着させることができるよう、各内容の3章において、これまでに学んだ技術の長所や短所、活用方法などを紹介する工夫がなされている。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作業の安全については、ガイダンスの中で2ページ掲載されている。 ○ 安全や環境、防災のポイントにはマークを付けて生徒の意識を高められるよう工夫がなされている。

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		9・開隆堂	第1・2・3学年 技術分野	技術・704	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望を のせて
取扱内容	学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等	<p>○ 技術分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「A材料と加工の技術」において、身の回りの製品の工夫を調べることを通して、材料と加工の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、利便性や機能性を追求した製作品に関する実習を通して、材料と加工の技術を工夫し創造したりする活動 ・「B生物育成の技術」において、夏野菜を一年中栽培することができる技術を調べることを通して、生物育成の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、生物育成の技術の発展について話し合うことを通して、生物育成の技術を工夫し創造したりする活動 ・「Cエネルギー変換の技術」において、私たちの生活とエネルギーとの関わりについて考えることを通して、エネルギー変換の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、工場から排出される熱エネルギーなどの未利用エネルギーを有効に活用する技術について話し合うことを通して、エネルギー変換の技術を工夫し創造したりする活動 ・「D情報の技術」において、生活の中で情報に関する技術がどのように利用されているか考えることを通して、情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解したり、今後の生活に求められる情報の技術について話し合うことを通して、情報の技術を工夫し創造したりする活動 <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、「生物育成の技術による問題解決」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、生活をよりよくする方法を考え実践したり、自分の考えを根拠や理由を明確にして説明したりするなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。</p>			
内容の 構成・ 排列、 分量等		<p>○ 内容の構成・排列については、「生活や社会における技術の役割」において、3年間の学習の見通しを立てるガイダンス的な学習の後に、4つの内容に関する基礎的・基本的な知識を活用した実習を行い、技術の適切な評価・活用について考える活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「ガイダンス」は10ページ、「A材料と加工に関する技術」は74ページ、「B生物育成に関する技術」は46ページ、「Cエネルギー変換に関する技術」は54ページ、「D情報に関する技術」は72ページで、総ページ数は296ページであり、前回より10%増となっている。</p>			
使用上の 配慮等		<p>○ 生徒の興味・関心を高めることができる写真やイラスト、図表、コラム等を各ページに示したり、実践的・体験的な学習活動や実習例を掲載したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 各小項目の冒頭に授業の動機付けとなる「導入課題」や、学習を振り返り、学びを深めることができる「学習のまとめ」を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 教科書の構成と使い方について説明するページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインの書体にしたりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>			

<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域素材については、巻末に伝統工芸等の全国マップを記載しており、ラベンダーなど北海道で生産される農作物の育成例が取り扱われている。 ○ ICTの活用については、各ページ下段にQRコードが掲載されている。専用サイトには各内容の目次が示されており、現在の学習に必要なものだけでなく、既習の学習の振り返りを行う上でも分かりやすい配置になっている。掲載内容として、実習の解説動画のほか、材料の比較などの実験動画や教科書の内容の補足・追加資料があり、教科書と併せて活用しながらより学習内容の理解を深めるなどの配慮がなされている。 ○ 小中連携による指導については、小学校で学習したプログラミングソフト「Scratch」の主な機能や基本の操作方法の説明、プログラム例が掲載されている。また、小学校の学習内容と関連する項目にマークを付けて分かりやすくする配慮がなされている。
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自らの力で生活の中から課題を見だし、見方・考え方を働かせ、よりよい生活を目指して工夫し創造する力を育むことができるよう、A～Dの全ての内容の実習例に、問題解決の手順を10～20ページ程度詳しく掲載するなどの工夫がなされている。 ○ 授業の中で身に付けた技能を生かして、実生活の中の問題を解決する力を育むことができるよう、巻末に資料として、アプリケーションソフトの基本操作とプログラミングについてまとめて掲載されており、学習を振り返りながら実践的な技能を生かすための工夫がなされている。 ○ 学んだ知識を実生活の事象などに関連付けて定着させることができるよう、「話し合ってみよう」というコーナーを設け、実生活の問題との結び付きを意識し、考えるよう工夫がなされている。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作業の安全については、ガイダンスの前に3ページ掲載されている。 ○ 安全や環境、防災のポイントにはマークを付けて生徒の意識を高められるよう工夫がなされている。